資料２

議題２　自立支援・重度化防止に係る目標設定について

１　概要

自立支援・重度化防止に係る取組と目標については、

・地域の実情に応じ、自ら抽出した課題に応じて、個別具体的に記載すること

・実施・達成状況を毎年度自己評価することを前提に設定すること

とされている。

国からの例示はなく、各保険者で取組と目標を設定し、毎年度評価する必要がある。

・プロセス指標（○○教室を●回 etc.）よりも、アウトカム指標（効果や成果のわかるもの）

・インプット指標（会議の回数といった取組の投入量を表した数値）だけでなく、アウトプット指標（取組を実施することで発生した成果物や事業量を表した数値）

が望ましいとされている。

２　本市の場合

議題１のとおり、元気な高齢者がいつまでも地域で元気に暮らせるための施策を推進することが施策の中心となる。

３　目標設定の案

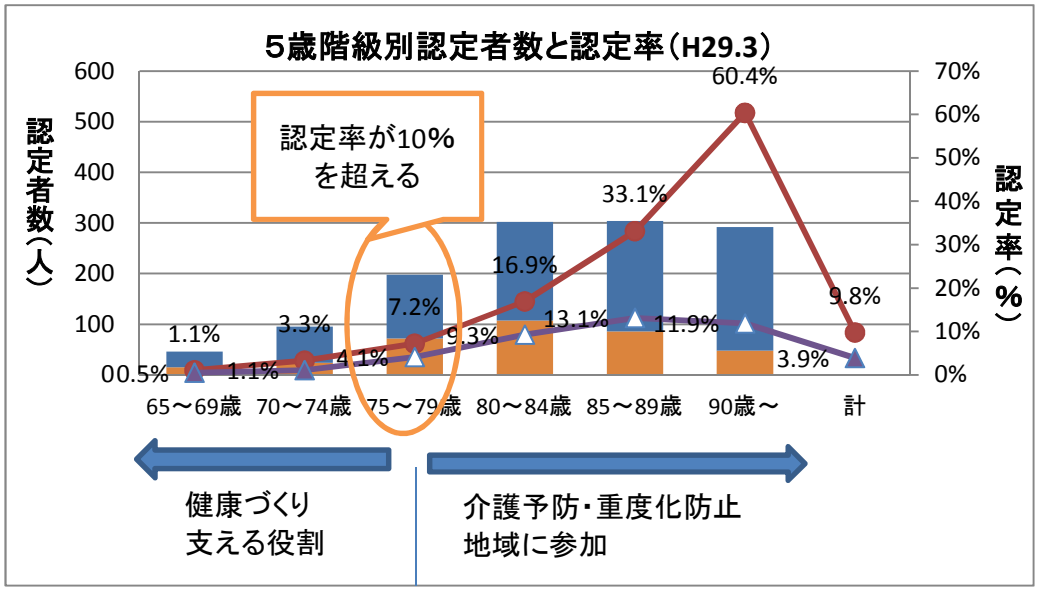
⑴　認定率を現状維持

今後 75 歳以上人口が大幅に増える見込みであり、認定率も上がる見込みであり達成は難しい可能性

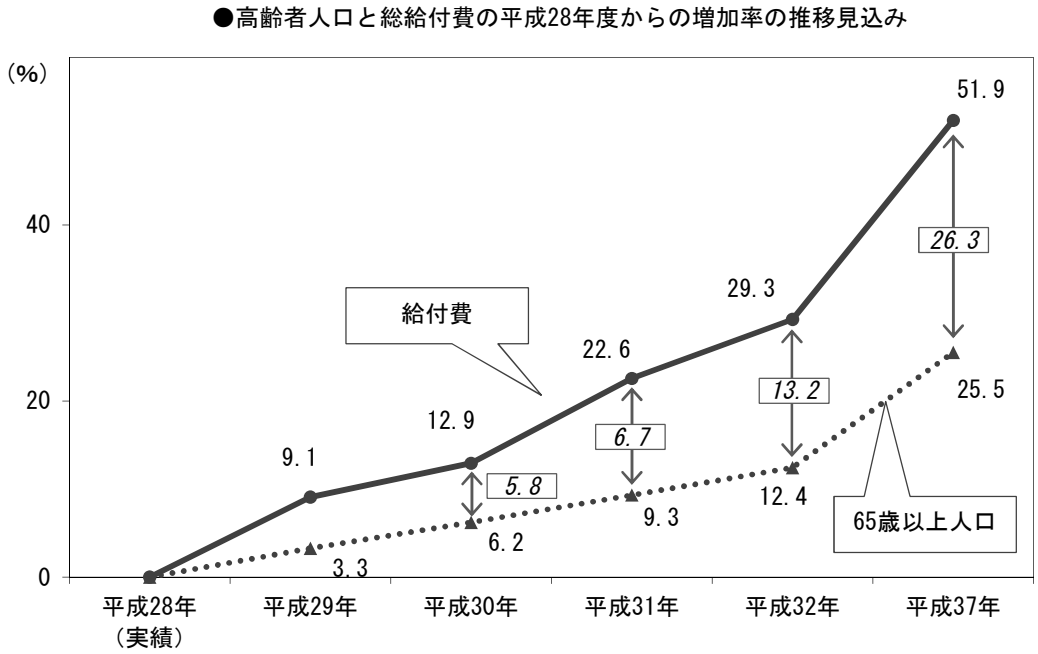
⑵　市民全体の主観的健康度、幸せ度

毎年度調査することが困難

⑶　75～79 歳など特定の年代の認定率を現状維持（or 低下）



⑷　給付費の伸びを高齢者数の伸び以下に抑える



資料１のとおり、平成 37 年までは 65 歳以上人口の中でも 75 歳以上の割合が増し、要介護認定者数も急増する見込みのため、給付費も同様に増加すると考えられる。

⑸　いきいきライフ事業等の参加率を上げる

平成 28 年 12 月から開始した一般介護予防事業の一つ「どこでもいきいき健康教室」は、平成 29 年 9 月の実績で 65～69 歳で 49 人（当該年齢人口の 1.7%）、70 歳代で 160 人（同 3.9%）、80 歳代で 81 人（同 4.3%）が参加している。

⑹　いきいきライフ事業等の参加者の健康度を上げる

参加者の健康度をどのように測定するかは検討中。きちんとした統計をとりたい反面、取組の自主性を高めたいという狙いもあるため、簡易かつ適当な指標としてふさわしいものを模索している。